

# 公益社団法人日本包装技術協会

## 2023年度 活動方針

国連が世界の共通目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択し、現在、日本でも様々な取組みが国や企業において行われている。

包装は内容品を守り、延命させる要であり、SDGsの目標に叶ったものであるが、素材の製造技術の革新や3Rの追求が常に求められている。

その中でも将来起こる世界的な食糧問題や環境関連の課題において、包装の果たすべき役割は大きく、さらなる技術向上とイノベーションが求められている。

しかし一方、世界情勢の変化に伴う急激な円安問題や、未だに収束の光が見えない新型コロナウイルス問題等、新たに湧き起こる様々な問題も同時に乗り越えて行かねばならない状況となっている。

我々は包装が取組むべき課題を十分に認識・周知し、包装分野だけでなく他業種との横断的な協業・開発を促進できるよう情報・課題の共有を図るプラットフォームを整える必要がある。

以上のような状況を踏まえ、新たな時代の幕開けとなる本年度に協会は次の事項を重点とした諸活動を展開する。

### 1. グローバルな包装関連情報の提供

SDGsへの取組みが世界各国で行われる中、包装分野においても国、或いは地域で新たな動きがみられるようになってきている。こうした最新情報を国内情報だけに留まらず、海外での新たな取り組みや考えを、機関誌、SNS、講演会等を通してタイムリーに情報提供を行う。

### 2. 諸団体との協力体制の推進

新型コロナウイルス感染拡大問題により、諸団体においても事業のシュリンクを余儀なくされている。団体同士の垣根を越えた交流や各種調整により、相互会員において共にメリットが創出できるよう努めていく。

### 3. 継続的な包装標準化への取り組み

国内包装業界の健全な発展に向け、JIS規格の制定・改訂作業を会員代表企業並びに各界専門家の協力を仰ぎ継続的に審議を行っていく。また、ISOにおいては、ISO/122(包装)の議長及び国際幹事国として、国内意見の取り纏め並びにISO事務局への提案のほか、他国からの提案へのコメントを確実に言い、国際的標準化やルール作りに向けた取り組みを一層強化する。

### 4. 協会事業の新たな見直しと体質強化

新型コロナウイルスの感染拡大問題により、当会諸事業においては、この3年間一時回避的な事業プログラム内容の変更等を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大や働き方改革等により従来の社会通念が変化しつつある今日、抜本的な事業内容の見直しを行う必要がある。本年は当会設立60年を迎え、次の70年目に向けて、当会活動の進化と周知、時代にマッチした事業活動の確立を進めていく。また同時に、先に開設した当会の寄附金制度を広く会員に理解いただき、財政面での後方支援をいただけるよう努めていく。

## 2023年度(令和5年度) 事業計画

## 1. 研修、育成事業、交流事業、普及啓発事業（公益目的事業1）

## &lt;研修、育成事業&gt;

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染の終息時期が見えないため、研修事業のカリキュラム内容・開催時期等により、開催方式をWeb オンラインによるものと、実地集合対面開催するもの、あるいはハイブリッドで開催するなど、参加者の安全・安心を第一に考えた、研修活動を展開していく。

各種包装人材育成事業の中の包装管理士講座は本年で58回目の開講を迎え、現在の社会状況やニーズから座学はオンラインで実施し、合宿は対面で開講する予定であるが、感染状況等によりオンライン対応も考慮する。

なお、出願受付は地域別（東京、名古屋、大阪、福岡、仙台、札幌）にて行う。

包装分野においてトップレベルの内容で実施されている包装専士講座は、新型コロナウイルスの感染防止対策を実施のうえ、輸送包装コース、食品包装コース、包装材料コース及び医薬品包装コースの4コースで合計40名までの募集枠で実施する。

包装に携わる人々に求められる知識や技術を提供する人材育成コースと、内外の最新情報の提供を目的として実施されているセミナーは、昨年引き続きオンラインと対面のスタイルを催事内容に合わせて選択し開催する。それぞれ時代に適合した内容が多いが、昨今の環境問題を背景とした持続可能な社会構築を目指した包装及び関連技術の開発動向や、生活者にとっての安全・安心そして利便性などを目指し開発された包装商品の事例等を主なテーマに本年も実施する。又、これらの事業は支部別に地域のニーズに合わせて開催しているが、地域のニーズを盛り込んだ内容となるよう取り組んでいく。

なお、すべての内容は当会のホームページで一般公開されており、包装に関心を持つ人々は参加が可能である。

## 1) 第58期包装管理士講座 本部・支部 6月開講～9月終講（うち13日間）

開催地：集合・合宿研修 ロワジュールホテル豊橋（コース別に対面で実施）

一般講義 受講者の職場や自宅（オンライン受講希望者）

AP日本橋（対面受講希望者）

定員：430名

地域別募集枠	東京(含む仙台)	200名	大阪	100名
	名古屋	70名	福岡	30名
	仙台	15名	札幌	15名

合格証書授与式(地域別開催) 10月～11月

東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌

## 2) 2023年度包装専士講座 東京本部

6月開講～3月終講 共通教科4日、専門教科10日

開催地：合 宿 レクトーレ葉山湘南国際村センター

コース別座学 東京 (JPI 会議室・ビジョンセンター浜松町)

定 員：40名 (4コース合計)

- (1) 第36期輸送包装コース
- (2) 第37期食品包装コース
- (3) 第36期包装材料コース
- (4) 第35期医薬品包装コース

## 3) 研究大会

- (1) 第61回全日本包装技術研究大会 奈良大会 本部・支部

12月7日(木)～8日(金)

開催地：奈良市 (奈良県コンベンションセンター)

定 員：250名

## 4) 講習会 (無料)

- (1) JPI WEB フォーラム 本部・支部 4月～3月 年35回予定

オンライン開催 定員：300名

配信予定：東京本部 15本 関西支部8本 中部支部8本

西日本支部2本 東北支部2本

## (2) その他講習会

東京本部

新潟県包装研究会 (JPI WEB フォーラムとして運営)

静岡県包装研究会 (JPI WEB フォーラムとして運営)

包装情報ステーション 年2回 オンライン開催

中部支部

包装技術講習会 11月 ウィンクあいち

西日本支部

2023年度日本包装技術協会総会説明会特別講演 8月 西鉄イン福岡 定員30名

輸送・生活者包装研究会 10月 西鉄イン福岡 定員30名

北海道支部

包装懇話会 11月

包装基礎セミナー 2月

東北支部

包装研究講演会 2月

## 5) 研修コース (有料)

## 東京本部

(1) 第29回包装新人研修コース	4月	JPI 会議室	定員30名
(2) 第56回包装基礎コース	5月	JPI 会議室	定員45名
(3) 第1回循環型包装コース (仮)	8月 (予定)	オンライン	定員80名
(4) 第39回フレキシブルパッケージコース	11月	JPI 会議室	定員30名
(5) 第16回緩衝包装設計コース	1月	JPI 会議室	定員30名
(6) 第46回段ボール包装設計コース	2月	JPI 会議室	定員30名
(7) 第14回食品包装コース	2月	JPI 会議室	定員30名

## 関西支部

(1) 第30回包装基礎コース	5月10日(水)~12日(金)	ハートンホテル北梅田
(2) 第17回緩衝包装設計実践コース	10月13日(金)	大阪産業技術研究所
(3) 第50回段ボール包装設計実習コース	11月16日(木)~17日(金)	ハートンホテル北梅田 他

## 中部支部

(1) 2023年度包装設計の基礎講座	5月18日(木)~19日(金)	愛知県技術開発交流センター
---------------------	-----------------	---------------

## 6) セミナー、シンポジウム (有料)

## 東京本部

(1) 化粧品包装セミナー	7月・11月	東京都内会議室又はWeb
(2) パッケージイノベーションセミナー	10月	東京都内会議室又はWeb
(3) 包装材料セミナー	1月	東京都内会議室又はWeb
(4) 医薬品包装セミナー	3月	東京都内会議室又はWeb
(5) 包装近未来シンポジウム	3月	東京都内会議室又はWeb

## 7) 講演会・発表会

## 東京本部

(1) 2023パッケージングフォーラム	8月
----------------------	----

## 中部支部

(1) 2023日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会	12月	ウヅクあいち
(2) 第63回包装技術研究大会中部大会	2月	ウヅクあいち

## 西日本支部

(1) 包装事例研究発表会(包装管理士合格者)	11月2日	西鉄イン福岡
(2) 包装事例研究発表会(2023日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会)	3月	オンライン開催

## 北海道支部

(1) 第58期包装管理士合格者レポート発表	11月
(2) 新春研究会	1月

## 東北支部

- (1) 東北支部包装技術研究発表大会 11月  
 (2) 新春講演会 1月 江陽グランドホテル

## 8) 包装懇話会 (年間登録メンバー制)

## 東京本部 (いずれもオンライン開催予定)

- (1) 食品・流通包装懇話会 7月・9月・12月・2月  
 (2) 医薬品包装懇話会 6月・9月・11月・2月  
 (3) パッケージデザイン懇話会 5月・8月・11月・2月  
 (4) 輸送包装懇話会 7月・9月・11月・1月

## 関西支部

- (1) 生活者包装研究懇談会 年4回予定 (内 見学会1回)

## &lt;交流事業&gt;

本年度は昨年につき国内、海外ともに新型コロナウイルス感染症の影響下にあるため、当面の間はオンライン開催可能な会議会合を行いつつ、実地見学と対面会合は各地の事態収束状況に応じて受入先より実施応諾の得られたものから、漸次開催する。

## 1) 国内事業

## (1) 見学会

- ①東京本部 関東圏企業・施設見学 年3回予定  
 ②関西支部 関西圏 年2回予定  
 ③中部支部 東海地方及び隣接地域 9月・3月 (2023年度包装研究懇話会)  
 ④西日本支部 九州及び西中国地方 年2回予定  
 ⑤北海道支部 北海道内企業 10月予定  
 ⑥東北支部 東北地方企業 2023年度内に1回

## 2) 海外交流事業 (公益目的事業 1) 東京本部

## (1) アジア包装連盟 (APF) との連携

- ①APF 戦略会議 4月 中国またはWEB 開催予定  
 ②理事会、総会、アジアスター審査及び表彰式 10月 フィリピン・マニラにて開催予定

## (2) 世界包装機構 (WPO) との連携

- ①前期行事：5月上旬 ドイツ・デュッセルドルフ  
 前期理事会、ワールドスター2023表彰式、ワーキンググループ等  
 ②後期行事：11月 南アフリカにて開催予定  
 後期理事会、コンフェレンス、ワールドスター2024審査等

## (3) 国際包装研究機関連絡会 (IAPRI) との連携

- 第31回IAPRIメンバー会議 5月 インド・ムンバイにて開催予定



## 2) 2024 東京国際包装展 (TOKYO PACK 2024) の開催準備

本展は既に 2024 年 10 月第 4 週に、東京ビッグサイト東ホールにて開催することが決定している。

2030 年の SDGs の目標や、政府が掲げる 2050 年のカーボンニュートラルを達成確実にするために、2024 年は大事な年回りであり、今まで以上に技術振興、技術開発、人的交流は欠かすことができない。本展が包装技術の最新情報を発信するプラットフォームとして機能するために、国際的な視野にたち、時代のニーズをいち早くキャッチし、包装産業の発展に寄与できるよう準備を進める。また、今春に実行委員会を発足し、メインテーマに沿った企画展示や情報提供など、全国の会員及び関係各位、関連機関との連携のもとに準備を進める。

名 称：TOKYO PACK 2024 - 2024 東京国際包装展

Tokyo International Packaging Exhibition 2024

会 期：2024 年 10 月第 4 週 10:00~17:00

会 場：東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東ホール

後 援：経済産業省 他 8 団体 (申請予定)

協 賛：包装関連団体 100 団体

出展内容：包装資材・容器 包装機械 印刷・包材加工機械 食品・医薬品・クリーン関連機材、  
検査・計測・環境関連機材 包装デザイン・サービス 次世代テクノロジー、  
包装・物流ソリューション 海外出展

併催行事：2024 グッドパッケージング展、2024 (第 48 回) 木下賞受賞作品展、  
出展社による最新包装技術セミナー、PACKAGE DESIGN PAVILION 2024

出展募集期間：2023 年 9 月 25 日 (月) より受付開始

## 3) アジア・ヨーロッパ主要各国の国際包装展への TOKYO PACK PR ブース参加

各国の今後の開催状況などを鑑み検討する。

## 3. 調査研究事業 (公益目的事業 3) 東京本部

現在、日本は、ISO/TC 122 (包装)の議長及び、国際幹事国を引受けており、当協会は、包装分野の国内審議団体の他に、ISO規格の開発・改廃を進め、これらを通じて国際間の相互理解促進に寄与している。2022年度からは新たな事業年度(事業年度は3年間)として「『戦略的国際標準化加速事業』テーマ名：適正包装に関する国際標準化」事業を開始し、日本から提案の新規事業開発として「ISO段ボール箱の形式呼称統一」をスタートさせた。また、継続事業として、「ISO/TR 18607: ISO 18600規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック」及び「改正ISO 21898: 非危険物用フレキシブルコンテナ」の開発を進めている。

これら開発事業以外にも国際幹事国としてISO/TC 122 (包装)における様々な規格開発の支援を行っている。一方、「包装のアクセシブルデザイン」は、日本から提案した4つの国際規格及びJIS規格の開発は終了し、「包装のアクセシブルデザイン」の個別規格として、JIS新規テーマ2件の規格化の活動を行い、2023年には規格発行を予定している。

また、包装は国民の日常生活に深く係っており、絶えず、その標準化を見直し、生活し易い環境を整えることが求められていることから、本年度もJIS規格の見直し作業も精力的に進める。

- 1) ISO/TC 122 (包装)の議長・国際幹事国(事務局)としての活動
  - (1) 第25回ISO/TC 122総会
    - 2023年9月にマニラ(フィリピン)での開催を予定している
  - (2) 各WG(規格開発作業グループ)の国際会議への参加
  
- 2) ISO/TC 122 (包装)の国内審議団体としての調査研究及び標準開発活動
  - (1) 包装全般の国際規格に関する調査研究
  - (2) 「国際標準開発」に対する調査研究
    - ①ISO XXXX: 段ボール箱の形式呼称統一の国際標準の開発(日本新規提案)
    - ②ISO/TR18607: 「ISO18600規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック」の国際標準の開発(日本新規提案)
    - ③ISO21898: 「非危険物用フレキシブルコンテナ」の国際標準の開発(日本改正提案)
    - ④ISO 4924: エコデザインの原則—宅配便包装に関する要求事項及びガイドラインの開発(海外新規提案)への対応
    - ⑤ISO 7683: プラスチック製容器に適用される取り外し可能なシュリンクラベルに関する設計ガイドライン及び試験方法(海外新規提案)への対応
    - ⑥ISO 17508: 危険物輸送包装—ポリエチレン製包装及び共押出プラスチック包装の(対内容物)化学的適合性(海外新規提案)への対応
    - ⑦ISO 23416: 「温度制御が必要な医薬品包装」の国際標準の開発(海外新規提案)への対応
    - ⑧ISO 23417: 「非滅菌医療機器包装適正物流」の国際標準の開発(海外新規提案)への対応
  
- 3) JIS制定・改正に関する調査研究
  - (1) 包装に関するJISの原案作成事業の実施
    - ①JIS S 0021-5「包装—アクセシブルデザイン—第5部: 集合包装用段ボール箱の重量に関する情報の表示」の制定
    - ②JIS S 0021-6「包装—アクセシブルデザイン—第6部: 詰替え容器」の制定
    - ③JIS Z 0200「包装貨物—性能試験方法一般通則」の改正
  - (2) 5年経過したJISの定期見直し
 

上記標準化開発、調査研究は、政府関連機関からの委託事業又は日本規格協会の公募事業である。
  
- 4) 2022年の日本の包装産業出荷統計に関する調査研究
- 5) 包装教育に関する研究・調査

#### 4. 出版関連事業 (収益事業) 東京本部

月刊機関誌「包装技術」は、包装専門家で構成された編集委員会によって企画が行なわれており、創立以来、欠号なく刊行されている。本年度も引続き一層の内容の充実を図りながら月刊機関誌として毎月刊行する。本誌は、包装技術及び関連情報が中心となっているが、当会事業の案内や調査

研究の成果、さらに新会員の紹介等幅広い内容を掲載し公開している。本事業は収益事業として、一般による購読収入と広告収入によって進められている。本年度も引続き編集委員会主導のもとで編集に当たる。

また、包装技術便覧を1995年以来の全面改訂版(第5版)として2019年2月に発刊、2022年10月には創立60周年を記念し、新たに「包装用語 早わかり」包装用語辞典も発刊したことを受け、今後も、包装産業界の人材教育、研究開発の一助として広報並びに販売を行っていく。

また、日本の包装産業出荷統計に関する調査研究は、昭和38年の創立以来欠かすことなく継続しており、本年度も2022年の統計を刊行する。これは、当会ホームページで紹介される。

- 1) 機関誌「包装技術」の刊行 月刊 (毎月1日発行)
- 2) 包装技術便覧(2019年2月発刊)の販売
- 3) 「包装用語 早わかり」包装用語辞典の販売
- 4) 「包装…知っとく知識」改訂版の販売
- 5) 「Q&A容器包装規制基準の手引き」誌の編纂

## 第2. 諸 会 議

- 1) 理事会 5月16日(火)、6月13日(火)、11月20日(月)、3月 JPI会議室・如水会館
- 2) 常務理事会 3回開催 JPI会議室・如水会館
- 3) 全国支部連絡会 5月・12月
- 4) 本部・支部諸会議 本支部単位で運営委員会・講習会委員会等を逐次開催
  - ①東京本部 (研修教育) 包装専士講座研修委員会、包装管理士講座研修委員会、WEBフォーラム委員会、包装懇話会幹事会、各種セミナー企画委員会、他
    - (展 示 会) 東京国際包装展実行委員会
    - (調査研究) ISO/TC122委員会、JIS委員会、他
    - (出 版) 月刊機関紙「包装技術」編集委員会(毎月)、包装統計委員会
  - ②関西支部 役員会5月22日(月)、運営委員会(年2回)12月・3月  
生活者包装研究懇談会実行委員会(年3回)
  - ③中部支部 役員会 5月25日(木)、運営委員会(年2回/9月・3月)  
研究例会テーマ検討作業部会 2月
  - ④西日本支部 運営委員会 8月・2月
  - ⑤北海道支部 運営委員会 5月・10月
  - ⑥東北支部 運営委員会 5月・10月・2月

## 第3. 行事・その他の活動

- 1) 行事
  - (1) 第12回定時総会 6月13日(火) 如水会館

## (2) 新年会

東京本部	2024年包装界合同新年会	1月9日(火)	ホテル椿山荘東京
関西支部	2024年新春会員交流会/講演会	1月19日(金)	大阪倶楽部
中部支部	2024年新年賀詞交歓会	1月24日(水)	名古屋マリオットアソシアホテル
北海道支部	2024年新春賀詞交歓会/新春研究会	1月	
東北支部	2024年新年名刺交換会/新春講演会	1月予定	江陽グランドホテル

## 2) 会員交流会・支部特別講演会

関西支部 総会	5月22日(月)	中部支部	6月20日(火)
西日本支部	8月	北海道支部 総会	6月、IPP 合同親睦会 7月予定
東北支部 新包装管理士を囲む会	11月予定		

## 3) その他の活動

(1) Web サイトによる最新情報の提供 ホームページ 定期更新12回、逐次情報発信

(2) Eメールによる協会活動内容の国内配信 J P I メールマガジン 12回

(3) J P I 関連団体との連絡提携

日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、  
技術士包装物流会、日本包装学会、日本MH協会 他

(4) 行政機関要請への協力と連携、研究機関、消費者団体、市民団体等との連携

経済産業省、厚生労働省、農林水産省、中小企業庁、消費者庁、東京都、  
横浜市、福岡県循環推進課

(地独)大阪産業技術研究所、兵庫県工業技術センター、  
あいち産業科学技術総合センター 他

(5) その他

要請内容について随時判断